

第24回 基盤教育ワークショップ 要項

趣 旨： 学士課程教育におけるFDが義務化された現在，大学教育の質の向上が以前にも増して求められています。本ワークショップは，大学教育の発展を目的とし，相互研鑽の理念の下，本学の教職員および「FDネットワーク”つばさ”」を始めとした学外からの参加者と一緒に議論を深めていきます。

日 時： 令和4年9月22日（木）10：00 ～ 15：30（予定）

開催方法： Zoomによるオンライン開催

主 催： 山形大学教育開発連携支援センター

時間	プログラム
09:50	Zoom接続開始
10:00	開会 司会・挨拶 山形大学教育開発連携支援センター長／教授 栗山恭直
10:15 (90分)	<p>【第1部】基調講演</p> <p>講 師： 千葉商科大学 基盤教育機構 准教授 田中 信一郎 氏</p> <p>演 題： 千葉商科大学の自然エネルギー100%大学プロジェクト</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><講演概要></p> <p>千葉商科大学が自然エネルギー100%を実現した経緯と内容を説明すると共に、その社会的な意義を解説する。それは、建学の精神、教職員・学生による知見の蓄積、経営・教学トップの意志、資金調達・事業推進のノウハウが一体となり、実現してきた。現在は、それが研究や教育、ブランド、経営改革とさらなる発展につながっている。社会的には、他大学への波及、国・自治体への知見提供、人材育成に至っている。持続可能な大学キャンパスの形成は、施設整備の観点にとどまらず、キャンパスそのものが持続可能性を高める研究、教育、地域のプラットフォームになることを意味し、すべての大学にとって重要な意義を有する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><講師紹介></p> <p>明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程修了、博士（政治学）。 国会議員政策担当秘書、明治大学政治経済学部専任助手、横浜市地球温暖化対策事業本部政策調査役、内閣官房国家戦略室上席政策調査員、長野県環境部環境エネルギー課企画幹、同企画振興部総合政策課企画幹、自然エネルギー財団特任研究員等を経て、2019年4月から現職。</p> <p>主たる専門分野：公共政策 横浜市、内閣官房、長野県等にて、持続可能な社会の形成及び地球温暖化対策、エネルギー政策、地域振興政策に参画。その後、長野県ゼロカーボン戦略及び環境省の自治体向け地球温暖化対策マニュアル策定に有識者として参画。現在は、千葉商科大学の自然エネルギー100%大学プロジェクトに参画すると共に、自然エネルギー大学リーグの事務局長を務めている。主な著書に『信州はエネルギーシフトする一環境先進国・ドイツをめざす長野県』（築地書館）等がある。</p> </div>
11:45	質疑応答
12:00	休憩

13:30

～

14:30
(60分)

【第2部】ラウンドテーブル

○第1分科会：キャンパスでのカーボンニュートラル

コーディネーター：山形大学理学部 教授 栗山 恭直

パネリスト：山形大学施設部施設企画課 白川 洋
施設運用・安全担当上席係長

<概要>

国を挙げてカーボンニュートラル達成に向けて様々な取り組みが行われています。大学でもカーボンニュートラルを達成するために取り組みが始まっています。基調講演に引き続き第1分科会においてカーボンニュートラルについて事例紹介と情報交換を行いたいと思います。

最初に、大学の環境報告書をまとめている施設部から現状について報告いただきます。次にその報告書をもとに、理学部サイエンスコミュニケータープログラムを履修している学生たちのカーボンニュートラルの達成に向けての提案を講義のレポートから紹介します。

参加大学の皆さまと知見やノウハウを共有したいと考えております。

○第2分科会：直接評価指標を用いた授業・カリキュラム改善の実践

コーディネーター：山形大学学士課程基盤教育機構 教授 千代 勝実

パネリスト：山形大学法人本部 教授 浅野 茂
山形大学学士課程基盤教育機構 准教授 飯島 隆広
同上 准教授 安田 淳一郎
同上 准教授 白石 哲也

<概要>

これまで、大学教育の評価検証では、授業評価アンケートやGP（グレードポイント）の分布といった間接評価指標、またカリキュラムポリシーやチェックリストといった体系的な点検が行われてきた。これらは形式を整え、可視化を促すといった点で一定の効果があつたといえる。

山形大学では一歩進んで、大学教育の実質化を目指す上で、個々の授業やカリキュラム・教育プログラムを通して、学生の学修到達度の増分を評価するために、自主開発の標準テスト（山形大学では基盤力テストと呼んでいる）を1年生入学当初、2年生4月、3年生で実施し、授業やカリキュラム改善につなげる試みをおこなっている。この分科会では、その目的や実践例、評価を話題提供し、教育の質保証においてどのようにPDCAサイクルを閉じるのか、また今後の方向性について議論する。

○第3分科会：学生エンゲージメントと校友組織の存在意義

コーディネーター：山形大学校友会事務局長 樋口 浩朗

パネリスト：笑屋株式会社 代表取締役 真田 幸次
山形大学理学部4年
学生サークル「Team 道草」前代表 秋保 恭平

<概要>

今日の大学は、国公私を問わず、学生エンゲージメントを高め、卒業生をはじめとするステークホルダーと一体となった大学経営が求められています。山形大学では、「山形大学コミュニティの醸成・強化」を目的とする山形大学校友会（以下、「校友会」）が発足して16年になります。この間、学生の修学・課外活動及び就職支援、保護者との連携、同窓会に対する支援等様々な事業を行ってきました。

この分科会では、校友組織への造詣が深い笑屋（株）代表取締役の真田幸次氏と、校友会と協働してきた学生サークルを代表して、最上地方で活発な活動を展開しているTeam道草の秋保恭平さん（理学部4年）をお招きして、学生エンゲージメントと校友組織の存在意義について語り合い、参加大学の皆さまと知見やノウハウを共有したいと考えております。

14:30 ～ 15:30 (60分)	情報交換・解散 (グループワークで情報交換を行います。分科会ごとに解散となります。)
------------------------------	---

参加希望の方は、令和4年9月14日(水)までに参加申し込みフォーム (Microsoft Forms) により申し込みください。

参加申し込みフォーム : <https://forms.office.com/r/FaSsmvuRmN>

国立大学法人山形大学小白川キャンパス事務部

運営支援課教育企画担当

E-Mail yu-syugaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

TEL 023-628-4720 (直通)